

## ベトナム海上フンドン油田の開発移行について

記者各位

当社(社長:西尾 進路)の石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:大森 輝夫)は、ベトナム沖15-2鉱区ランドン油田で原油を生産しておりますが、今般、ランドン油田のサテライト油田<sup>※1</sup>として、同油田の北東に位置するフンドン油田の開発移行を決定し、原油生産設備の建設に着手いたしましたのでお知らせいたします。

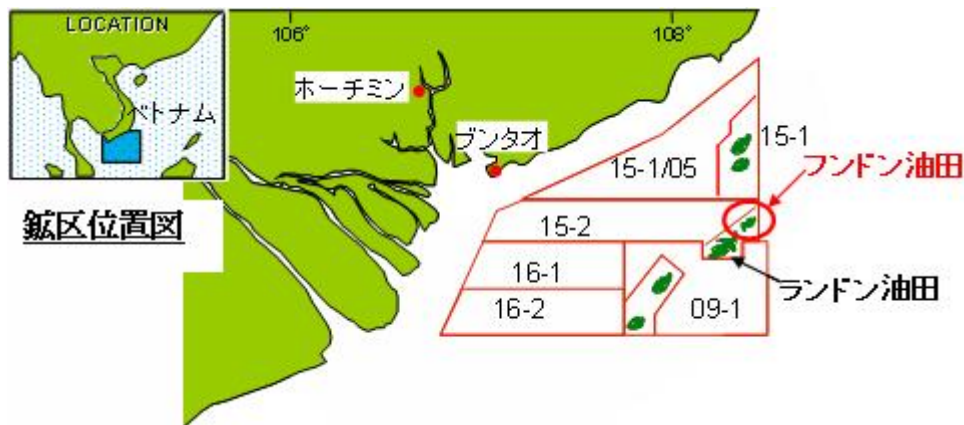
フンドン油田においては、2008年9月末に原油・ガスの生産開始を予定しており、初期生産日量は、原油換算で合計2万3千バレル(原油1万5千バレルおよびガス5千万立方フィート)となる見込みです。また、同油田は、ランドン油田の生産処理、貯油、出荷設備を利用することによりコスト削減が図られることから、当社の開発費投資見込み額は約53百万米ドル(約64億円)となります。

当社プロジェクト子会社である日本ベトナム石油(以下「JVPC」)は、フンドン油田の64.5%権益を保有しオペレーターを務め、パートナーのPVEP社(ベトナム国営石油会社子会社:35.5%)とともに、同油田の開発・生産活動を推進してまいります。

ベトナム沖15-2鉱区では、1992年10月の鉱区権益取得以降、JVPCがオペレーターとして探鉱活動を実施し、1994年6月、試掘1号井でランドン油田を発見いたしました。その後、評価・開発作業を経て1998年8月から生産を開始しており、これまでの累計生産量は1億3千5百万バレルに達しております。

※1 近傍油田の生産設備を利用して開発される油田

以上



「15-2」鉱区

別添資料  [ベトナムプロジェクトの概要 \(PDF:115.7KB\)](#)